

のしろ児童館だより

小松市北浅井町へ29

TEL・FAX 22-6430

平成30年 2月号

「おままごと」と「ペット」

「おままごと」は子どもたちに人気の遊びの一つです。そして「おままごと」は子どもたちの人間関係を映し出す遊びでもあり、子どもたちの育っている環境を映し出す遊びでもあります。

そんな「おままごと」の遊びの中で、こんな場面がありました。「おうちごっこ」をやっている、一番低学年のひとりの子どもが「ペット（飼い犬）」の役をしているのです。その子は、リードでつながれていて、ヨツンバイになって歩いています。その光景を見た職員が、「これは子どもたちの友達関係を映し出している。こんな場面を保護者が見たらどう思うだろうか。ペット役の保護者はどう思うだろうか・・・」と心配になりました。低学年の子どもだから「人間の役」は与えられず、「犬の役」になったのだと考えたのです。

この心配は当然の心配かもせれません。しかし、まったく逆の見方もあるのです。最近も「おままごと」の中で「ペット」の役をしている子どもがいました。上級生がその役をやっています。よく見ているとペットの犬は家族のだから可愛がられています。みんなに声をかけられ、大切にされる存在なのです。子どもたちの家のペットもそんな存在なのでしょう。だとすれば、そんな役をやりたくなる気持ちもわかります。

最近読んだ「教育書」（「かわいがり子育て」佐々木正美著）の中に、こんな内容がありました。

「子どもたち（保育園児・幼稚園児）にもっとも不人気なのが、お母さんの役なのだそうです。昔はお母さんの役が人気があって、ひっぱりだこだったのにこれはどうしたことでしょう。不人気の理由は、ままごと遊びを見ているとわかります。結局、だれかがお母さん役を引き受けることになるのですが、いざ、遊びが始まると、お母さん役が口にするのは「～しなさい」とか「～してはダメ」という命令や禁止の言葉が多いのです。子どもたちが日ごろ、親からどのように接してもらっているかがわかります。これではお母さん役は不人気なはずですね。」

これを読まれて、不安になられたおかあさんがいるかもしれませんが、ご安心ください。児童館で子どもたちが楽しんでいる「おままごと」を見ていると、お母さん役は、間違いなく「人気の役」です。家族を大切に、よく働くお母さんです。

お迎えの時に、時々子どもたちに話します。「これからは、お母さんタイムだよ。お母さんはお家に帰って家事をやらなきゃならない。まだまだ仕事がつづく・・・応援してあげよう。」子どもは「うん。わかった」と言いながら「お母さん、ランドセル持って！」・・・う～ん、どこまで子どもたちはわかっているんだろう。